

# ジャーナリズム公開講座

開催日はいずれも木曜日、時間は18:30~20:30

入場無料、申込み順先着80名 どなたでも参加いただけます。

**健全なジャーナリズムこそ民主主義の基本です。**

	<p><b>第4回／西本幸恒（文藝春秋編集者）7月19日</b>  <b>新静岡駅前ペガサート6階、静岡市産学交流センター（B-nest）</b>  <b>「ノンフィクションと調査報道の現場」</b> 文藝春秋新書編集部統括次長。1972年生まれ。東京理科大学理学部卒業。1996年、文藝春秋入社。月刊『文藝春秋』編集部、『週刊文春』編集部、ノンフィクション出版部などを経て、2014年より現職。週刊文春では清原和博の薬物事件などをスクープ。担当したおもな書籍に『サイコパス』（中野信子）、『発達障害』（岩波明）、『日本人が知らない集団的自衛権』『日米同盟のリアリズム』（以上、小川和久）、『父・金正日と私 金正男独占告白』（五味洋治）、『河北新報のいちばん長い日』（河北新報社）など。</p>
	<p><b>第5回／菱川暁夫（元陸上自衛隊テストパイロット）8月2日（B-nest）</b>  <b>「消防防災ヘリコプター 指揮と運用そして救助される立場から」</b> 1950年兵庫県生まれ。陸上自衛隊少年工科学校卒業後、飛行幹部候補生へ。81年、LR-1連絡機（民間ではMU-2）の機種転換訓練中に墜落。航空安全に貢献できるテストパイロットの道へ進む。初の国産観測ヘリOH-1の開発から部隊運用の開始まで、一貫して開発研究のテストパイロットとして生きる。2005年定年退官し、カワサキヘリコプターシステムに入社。島根県防災航空隊等のヘリパイロットとして勤務した。操縦した機種はOH-1、AH-1対戦車ヘリ、V-107輸送ヘリ、UH-1汎用ヘリ、BK117民間用ヘリ、P-2J、P-3C哨戒機、YS-11、C-1輸送機など。</p>
	<p><b>第6回／米山伸郎（日販グローバル代表取締役）8月30日（静岡県教育会館）</b>  <b>「知識産業立国イスラエルーイスラエルから何を学ぶべきか」</b> 1958年東京都生まれ。東京工業大学経営工学科卒。81年三井物産入社。一貫して防衛、航空分野を歩み、宇宙航空部次長、三井物産エアロスペース社取締役等を歴任。2008年より米国三井物産ワシントンDC事務所長。米国から見たグローバルビジネス環境情報の収集・分析を担当し、産官学関係者とネットワークを築く。早期退職後、13年に中小企業向け海外人材の紹介などコンサルテーションを行う日販グローバル株式会社を設立。著書に『知立国家 イスラエル』（文藝春秋）、訳書に『人口から読み解く 国家の興亡』（スーザン・ヨシハラ他著・ビジネス社）。</p>
	<p><b>第7回／加藤晴之（書籍編集者、元『週刊現代』編集長）9月27日（レイアップ）</b>  1955年大阪生まれ。80年講談社入社、創刊されたばかりの女性誌『ミス・ヒーロー』に配属。86年『週刊現代』編集部に移り、94年に編集次長、98年に『フライデー』編集長に就任。2003年から学芸図書出版部担当部長として書籍を編集。06年再び『週刊現代』編集長、09年に再び書籍編集へ。講談社を退社後、加藤企画編集事務所を設立。編集を手がけた小説『海賊とよばれた男』（百田尚樹著、講談社、2012年刊）はハードカバー、文庫あわせ420万部というベストセラーとなり、2016年には岡田准一さん主演で映画化された。</p>
	<p><b>第8回／小泉 悠（未来工学研究所研究員）10月25日（レイアップ 御幸町ビル）</b>  <b>「復活したロシアの軍事力と日本」</b> 1982年千葉県生まれ。早稲田大学社会科学部、同大学大学院政治学研究科修了。政治学修士。民間企業勤務、外務省分析員、ロシア科学アカデミー世界経済国際関係研究所（IMEMO RAN）客員研究員などを経て現職。ロシアの軍事・安全保障を専門としており、特にロシアの軍改革、ハイブリッド戦略、核戦略、宇宙戦略などに詳しい。主な著書に『軍事大国ロシア』、『プーチンの国家戦略』、『大国の暴走』（共著）、『徹底抗戦都市モスクワ』（同）があるほか、『軍事研究』誌等で分析記事を執筆している。</p>
	<p><b>第9回／小川和久（静岡県立大学特任教授）11月15日（静岡県教育会館）</b>  <b>「平和の実現と軍事報道」</b> 1945年熊本県生まれ。陸上自衛隊生徒教育隊・航空学校修了。同志社大学神学部中退。日本海新聞、週刊現代記者を経て1984年、日本初の軍事アナリストとして独立。外交・安全保障・危機管理の分野で政府の政策立案に関わり、国家安全保障に関する官邸機能強化会議議員などを歴任。2012年から現職で静岡県の危機管理体制の見直しに取り組んでいる。『危機管理の死角』『日米同盟のリアリズム』など著書多数。</p>

	<b>第10回／楊井人文 (FIJ 事務局長、弁護士) 11月29日 (B-nest)</b> ファクトチェック・イニシアティブ・ジャパン (FIJ) 事務局長。1980年大阪市生まれ。2002年、慶應義塾大学総合政策学部卒。産経新聞記者を経て、08年弁護士登録。12年春、日本報道検証機構を立ち上げ、マスコミ誤報検証サイト GoHoo を運営。報道品質の向上をミッションに掲げ、社会起業大学のソーシャルビジネスグランプリ審査員特別賞を受賞。17年、FIJ を立ち上げ、事務局長。著書に『ファクトチェックとは何か』(共著)。
	<b>第11回／川村二郎 (元『週刊朝日』編集長) 12月20日 (B-nest)</b> 「朝日新聞と日本語」1941年東京生まれ。慶應義塾大学経済学部卒。64年、朝日新聞社に入社。70年、東京本社社会部。75年、『週刊朝日』編集部員。82年、『週刊朝日』副編集長。89年、編集長。91年、朝日新聞編集委員。2001年、定年退職。2年間嘱託の後、日本医師会広報委員、日本語検定委員会審議委員(現・顧問)、学習院生涯学習センター講師を務めている。著書に『いまなぜ白洲正子なのか』『孤高 国語学者大野晋の生涯』『夕日になる前に だから朝日は嫌われる』『社会人としての言葉の流儀』など。
	<b>第12回／立岩陽一郎 (『ニュースのタネ』編集長、元NHK記者) 1月31日</b> 「踊らされる日本の米朝報道～関係者、関係筋情報に依拠した報道のまやかし～」 1991年一橋大学卒業。放送大学大学院修士課程修了。NHKでテヘラン特派員、社会部記者、国際放送局デスクとして主に調査報道に従事。政府が随意契約を恣意的に使っている実態を暴き随意契約原則禁止のきっかけを作ったほか、大阪の印刷会社で化学物質を原因とした胆管癌被害が発生していることをスクープ。「パナマ文書」取材に中心的に関わった後にNHKを退職。公益法人「政治資金センター」理事として政治の透明化に取り組む。著書に「トランプ王国の素顔」(あけび書房)、「NPOメディアが切り開くジャーナリズム」(新聞通信調査会)他。
	<b>第13回／軽部謙介 (時事通信論説委員) 2月28日</b> 「アベノミクスと報道」1955年東京都生まれ。79年早稲田大学卒、時事通信社入社。社会部、福岡支社、那覇支局などを経て東京本社経済部へ。ワシントン支局特派員(92-96年)、経済部次長、ワシントン支局長(2004-07年)、ニューヨーク総局長(07-09年)、編集局次長、解説委員長等を経て現職。著書に『官僚たちのアベノミクス』『日米コメ交渉』『検証 バブル失政』など。
	<b>第14回／山崎 毅 (食の安全と安心を科学する会理事長) 3月28日</b> 「『食の安全・安心』はリスクの大小を比較することから」1960年広島県生まれ。東京大学農学部卒。獣医学博士、リスク学者。1985年、湧永製薬入社。米国ロマリンダ大学医学部客員研究員を経て、94年からWakunaga of America社でサプリメントの研究開発と学術業務に従事。2011年NPO法人食の安全と安心を科学する会(SFSS)を創立、理事長に就任。社会活動として食生活ジャーナリストの会(JFJ)事務局長、NPO法人ファクトチェック・イニシアティブ(FIJ)理事。専門分野は食のリスクコミュニケーション、機能性食品。
<b>第1回／常岡浩介 2018年4月26日「国際報道とロシアの宣伝工作」</b>	
<b>第2回／高英起 5月31日「米朝首脳会談に向けた金正恩氏の本音」</b>	
<b>第3回／澤康臣 6月28日「世界の極秘情報を暴いた国際調査報道記者連合」</b>	

<b>静岡県立大学ジャーナリズム公開講座 受講申込書</b>			
<b>氏名</b>	フリガナ		
<b>住所</b>	〒		
<b>電話番号</b>	<b>職業</b>		
E-mail / FAX	<b>年齢</b>		<b>歳</b>

お申込先はFAX:054-245-5603またはnishi@u-shizuoka-ken.ac.jp  
 電話:054-245-5600 前日までにお申込みできない場合、当日に受付で申込書にご記入ください。